令和４年度高岡市一般会計・特別会計歳入歳出決算
及び基金運用状況の審査意見

第１　審 査 の 対 象

１　各会計の歳入歳出決算

令和４年度　高岡市一般会計
令和４年度　高岡市国民健康保険事業会計
令和４年度　高岡市荻布奨学金事業会計
令和４年度　高岡市駐車場事業会計
令和４年度　高岡市介護保険事業会計
令和４年度　高岡市後期高齢者医療事業会計

上記各会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書

２　各基金の運用状況

令和４年度　高岡市高額療養費貸付基金
令和４年度　高岡市美術館美術品取得基金

上記各基金の運用状況に関する調書

第２　審 査 の 期 間

令和５年７月 26 日から令和５年８月４日まで

第３　審 査 の 方 法

審査に当たっては、各会計の歳入歳出決算書及び附属書類が、関係法令に準拠して作成され、計数が正確であり、予算執行及び会計処理が適正であるかなどに主眼を置き、関係書類の照合確認を行うとともに、関係職員から決算についての説明を聴取するなどの方法により実施した。

また、基金の運用状況を示す書類の計数についても関係諸帳簿と照合した。

第４　審 査 の 結 果

審査に付された各会計の歳入歳出決算書及び附属書類は、いずれも関係法令の規定に準拠して作成され、その計数は関係諸帳簿と符合し正確であり、予算執行及び会計処理は適正であると認められた。

また、基金の計数は正確であり、設置目的に従い適正に運用されていると認められた。

なお、各会計別の予算執行状況及び財政状態並びに基金の運用状況に関する資料は、決算の概要等のとおりである。

第５　審 査 の 意 見

令和４年度の一般会計と特別会計を合わせた総計決算額は、歳入が 112,233,478 千円、歳出が 108,407,428 千円で、歳入歳出差引額(形式収支)は 3,826,050 千円となり、前年度に比べ歳入で 1,833,648 千円(△1.6%)、歳出で 3,263,068 千円（△2.9%)とそれぞれ前年度の決算額を下回っている。

一般会計は、歳入が 74,618,774 千円(前年度比△2.2%)、歳出が 71,546,985 千円(前年度比△4.2%)で、形式収支は 3,071,789 千円となり、これから翌年度へ繰り越すべき財源 998,030 千円を差し引いた実質収支は 2,073,759 千円となっている。

この実質収支から前年度実質収支 1,036,623 千円を差し引いた当年度の単年度収支に財政調整基金積立金 900 千円と繰上償還金 776,247 千円を加えた実質単年度収支は 1,814,283 千円の黒字となっている。

当年度の歳入が、前年度に比べ減少した要因は、市税の収入済額が 26,410,821 千円と、前年度に比べ 735,223 千円(2.9%)増加したものの、子育て世帯臨時特別給付金給付補助金が大きく減少したことなどにより、国庫支出金の収入済額が 13,548,785 千円と、前年度に比べ 962,257 千円(△6.6%)減少したことによるものである。

歳入全体の 35.4%を占める市税の増加要因は主に、個人市民税が給与所得の増加により 243,200 千円(2.8%)増加したことや、固定資産税がコロナ対応の軽減措置の終了により 437,990 千円(3.3%)増加したことによるものである。

市税収納率は 96.2%で、前年度に比べ 0.2 ポイント上昇し、収入未済額については 8,648 千円(△0.9%)減少している。今後とも自主財源確保のため、収納対策の推進と納税環境の整備を図るなど、適切に対応されるよう望むものである。

歳入全体の 5.8%を占める市債の発行額は 4,337,077 千円で、前年度に比べ 927,223 千円(△17.6%)減少している。このうち、借換債 1,616,900 千円を除いた額は 2,720,177 千円で前年度に比べ 2,544,123 千円（△48.3%）減少している。これは主に、学校建設事業債が増加したものの、臨時財政対策債、学校施設整備事業債、街路事業債が減少したことによるものである。

また、当年度末の一般会計の市債現在高は 93,950,386 千円となり、前年度末に比べ 6,726,664 千円(△6.7%)減少している。

歳入を財源別構成でみると、市税等の自主財源の割合は 46.3%、国庫支出金等の依存財源の割合は 53.7%となっている。自主財源の比率は、前年度に比べ 1.1 ポイント上昇し、19,185 千円(0.1%)増加している。依存財源の比率は、前年度に比べ 1.1 ポイント低下し、1,710,605 千円(△4.1%)減少している。これは主に、市税が増加したことに加え、国庫支出金が減少したことによるものである。

次に、歳出を性質別にみると、歳出全体に占める義務的経費の割合は 50.7%、投資的経費の割合は 8.4%、その他の経費の割合は 40.9%となっている。義務的経費の比率は、前年度に比べ 0.4 ポイント低下し、1,882,224 千円（△4.9%）減少している。これは主に、扶助費が減少したことによるものである。なお、扶助費の減少の主な要因は、子育て世帯臨時特別給付金等が減少したことによるものである。投資的経費の比率は、前年度に比べ 0.3 ポイント低下し、437,360 千円(△6.8%)減少

している。その他の経費は、前年度に比べ 0.7 ポイント上昇したものの、804,336 千円（△2.7%）減少している。これは主に、補助費等で認定こども園施設型給付費の支出が増加したものの、各種基金への積立金が減少したことによるものである。

普通会計における財政状況を示す指数・比率については、財政力指数が 0.73 で、前年度に比べ 0.01 ポイント低下し、経常収支比率が 85.1%（前年度比 2.4 ポイント）と上昇し、悪化したものの、実質公債費比率が 12.0%（前年度比△0.2 ポイント）と低下し、経常一般財源等比率が 105.0%（前年度比 3.4 ポイント）と上昇し、改善している。

今後とも市債については、将来にわたる償還額や残高を意識しながら抑制に努め適切に管理されたい。

次に、特別会計の決算状況をみると、５会計の形式収支は 754,261 千円で、翌年度へ繰り越すべき財源がないため、実質収支は同額となっている。各特別会計の実質収支は、国民健康保険事業会計、駐車場事業会計、介護保険事業会計及び後期高齢者医療事業会計の４会計で黒字となっており、それぞれ全額翌年度へ繰り越されている。また、荻布奨学金事業会計は収支同額である。

令和４年度は、新たな事業活動の創出や学校施設の整備に努めたほか、芸術文化・産業振興・地域福祉・歴史まちづくりなどの分野で、将来のまちづくりにつなげる取組を推進された。一方で、「高岡市財政健全化緊急プログラム」終了後の１年目であったが、投資的経費の抑制、公債費の平準化、公共施設管理コストの縮減、事務事業の見直しなどの取組を着実に進め、市債残高も 1,000 億円を下回るなど、取組の成果が表れたことが評価できる。

しかしながら、少子高齢社会の進行に伴う扶助費の増加が見込まれることに加え、学校施設等の整備が必要となるなど、今後も厳しい財政状況が続くものと思われる。

このことから、今後の市政運営にあたっては、「高岡市行財政改革推進方針」に基づき、引き続き、市債発行額の抑制や歳入確保等に取り組み、収支均衡した持続可能な行財政運営に努められたい。また、「高岡市総合計画第４次基本計画」に基づき、長期的な視点に立ちながら、次世代を見据え、市民の安全・安心を守る市政運営に当たるとともに、新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同様の５類感染症に位置づけが変わった今、さらに新しい変革の時代への挑戦を進められたい。